

## ニセコ町産農産物現状整理

# 目次

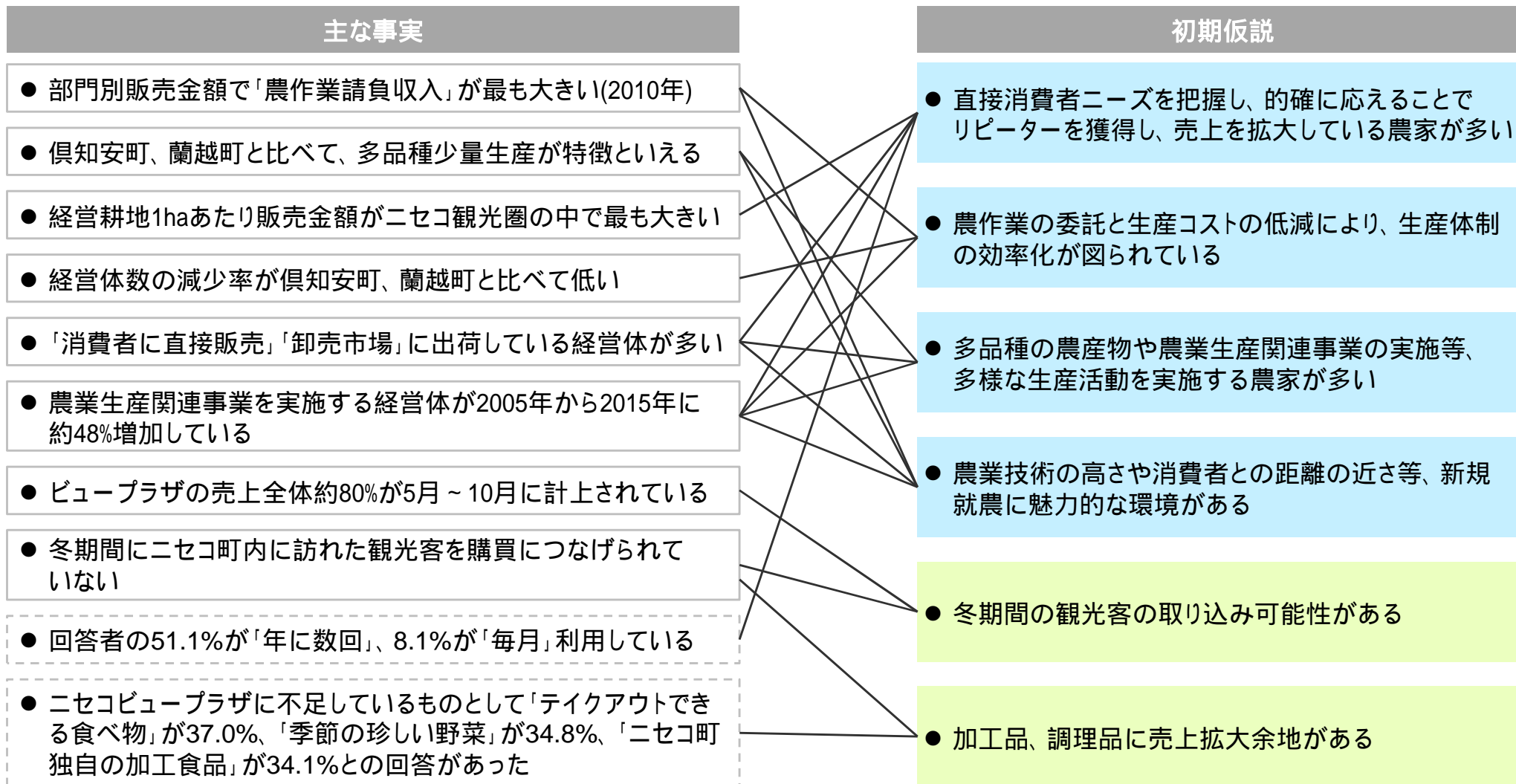
1. 初期仮説	2
2. 把握できた事実	4
3. RESAS産業構造マップ(農業)	10
(1) 農産物販売金額	10
(2) 農地分析	20
(3) 農業者分析	24
4. ニセコビュープラザ売上データ整理	27

# 1. 初期仮説

## 初期仮説

# RESAS産業構造マップ(農業)とビュープラザ売上データ等から把握した事実を基に、強み・機会の初期仮説を抽出しました

### ニセコ町産農産物の強み・機会(初期仮説)



\*ニセコビュープラザ再整備基本構想策定委託業務(平成26年3月、ニセコ町)における来訪者アンケート結果より

## 2. 把握できた事実

# RESAS産業構造マップ(農業)

## 農産物販売金額

### 農産物販売金額における主な事実

カテゴリ	ニセコ町	倶知安町	蘭越町
農業部門別 販売金額	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 販売金額総額は約26億円(2010年)</li> <li>➤ 「農作業請負収入*」が、最も販売金額が大きい(2010年)</li> <li>➤ 多部門にわたる農産物を生産している(多品種少量生産)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 販売金額総額は約43億円(2010年)</li> <li>➤ 「雑穀・いも類・豆類」が、最も販売金額が大きい</li> <li>➤ 「雑穀・いも類・豆類」が販売金額全体の半分以上を占めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 販売金額総額は約26億円(2010年)</li> <li>➤ 「稲作」が、最も販売金額が大きい</li> <li>➤ 「稲作」が販売金額全体の約7割を占めている</li> </ul>
経営体数	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2005年から2015年にかけて、約14%減少している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2005年から2015年にかけて、約34%減少している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2005年から2015年にかけて、約27%減少している</li> </ul>
経営体あたり 販売金額	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 1,717万円(2010年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 1,868万円(2010年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 864万円(2010年)</li> </ul>
1haあたり 販売金額	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 118万円(2010年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 94万円(2010年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 73万円(2010年)</li> </ul>
販売金額帯別 経営体割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「1,000万円以上5,000万円未満」の経営体数が最も多い(2010年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「1,000万円以上5,000万円未満」の経営体数が最も多い(2010年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「100万円以上1,000万円未満」の経営体数が最も多い(2010年)</li> </ul>
出荷先別 経営体割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 出荷先が「卸売市場」「消費者に直接販売」の経営体が多い(2015年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 出荷先が「農協」の経営体が多い(2015年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 出荷先が「農協以外の集出荷団体」「小売業者」の経営体が多い(2015年)</li> </ul>

\*ニセコ観光圏単位でみると、約18億円と全体の約20%を占めている(2010年)

# RESAS産業構造マップ(農業)

## 農地分析

### 農地分析における主な事実

カテゴリ	二セコ町	俱知安町	蘭越町
経営耕地 総面積	➤ 約2,200ha(2015年)	➤ 約4,200ha(2015年)	➤ 約3,200ha(2015年)
経営耕地規模別 経営体割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「10ha以上30ha未満」(2010年)の経営体が最も多い</li> <li>➤ 2005年から2010年にかけて「30ha以上」の割合が増加している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「10ha以上30ha未満」(2010年)の経営体が最も多い</li> <li>➤ 2005年から2010年にかけて「30ha以上」の割合が増加している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「1ha以上10ha未満」(2010年)の経営体が最も多い</li> </ul>
農地流動化率*	➤ 約27%(2015年)	➤ 約17%(2015年)	➤ 約40%(2015年)
耕作放棄地率**	➤ 2.2%(2015年)	➤ 3.3%(2015年)	➤ 2.8%(2015年)

\*農地流動化率 = 借入耕地面積 ÷ 経営耕地面積

\*\*耕作放棄地率 = (総農家の耕作放棄地面積 + 土地持ち非農家の耕作放棄地面積) ÷ (総農家の経営耕地面積 + 総農家の耕作放棄地面積 + 土地持ち非農家の耕作放棄地面積)

# RESAS産業構造マップ(農業)

## 農業者分析

### 農業者分析における主な事実

カテゴリ	二セコ町	俱知安町	蘭越町
農業経営者 年齢構成	➤ 65歳以上割合:25%(2010年)	➤ 65歳以上割合:23%(2010年)	➤ 65歳以上割合:27%(2010年)
農業就業人口 年齢構成	➤ 65歳以上割合:34%(2010年)	➤ 65歳以上割合:30%(2010年)	➤ 65歳以上割合:38%(2010年)
農業経営者 平均年齢	➤ 58歳(2015年)	➤ 58歳(2015年)	➤ 59歳(2015年)
農業就業人口 平均年齢	➤ 59歳(2015年)	➤ 56歳(2015年)	➤ 59歳(2015年)
法人化率	➤ 6.7%(2015年)	➤ 9.9%(2015年)	➤ 5.5%(2015年)
農業生産関連 事業実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2005年から2015年にかけて、農業生産関連事業を実施する経営体が約48%増加している</li> <li>➤ 「農産物の加工」、「消費者に直接販売」を実施する経営体が増加している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2005年から2015年にかけて、農業生産関連事業を実施する経営体が約19%増加している</li> <li>➤ 「消費者に直接販売」を実施する経営体が最も多くなっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2005年から2015年にかけて、農業生産関連事業を実施する経営体が約15%減少している</li> <li>➤ 「消費者に直接販売」を実施する経営体が減少する一方で、「農産物の加工」を実施する経営体が増加している</li> </ul>



## ニセコビュープラザ売上データ

### ニセコビュープラザ売上データから把握した主な事実

カテゴリ	ニセコビュープラザ売上データ
売上高	➤ 直売店の売上高は近年毎年増加している (2013年から2015年まで)
出荷者数	➤ 出荷者数は100を超えており、近年毎年増加 している(2013年から2015年まで)
取扱品数	➤ 取扱品数は900品程度ありますが、近年減少 傾向にある(2013年から2015年まで)
季節別売上高	➤ 6~11月に直売所売上全体の約80%が販売 されている
Yesクリーン 農産物	➤ かぼちゃを除くYesクリーン農産物の売上 成長率が年々低下している
観光客の 取り込み具合	➤ 冬期間にニセコ町内に訪れた観光客を購買 につなげられていない

## その他

### ニセコビュープラザ再整備基本構想策定委託業務\*で把握した主な事実

カテゴリ	ニセコビュープラザ来訪者アンケート調査
個人属性	➤ 回答者の70.4%が「女性」であった
利用目的	➤ 回答者の78.5%が「直売品の買い物」を目的に来訪している
利用頻度	➤ 回答者の51.1%が「年に数回」利用している ➤ 回答者の8.1%が「毎月」利用している
不足機能	➤ 「パン、お菓子など、その他食品の販売」(回答率23.7%) ➤ 「軽食」(回答率23.0%)
不足商品	➤ 「テイクアウトできる食べ物」(回答率37.0%) ➤ 「季節の珍しい野菜」(回答率34.8%) ➤ 「ニセコ町独自の加工食品」(回答率34.1%)

\*ニセコビュープラザ再整備基本構想策定委託業務(平成26年3月、ニセコ町)において来訪者アンケートを実施。ニセコ町HPより報告書取得

## 3. RESAS 産業構造マップ(農業)

### (1) 農産物販売金額

## ニセコ観光圏(ニセコ町、倶知安町、蘭越町合算)

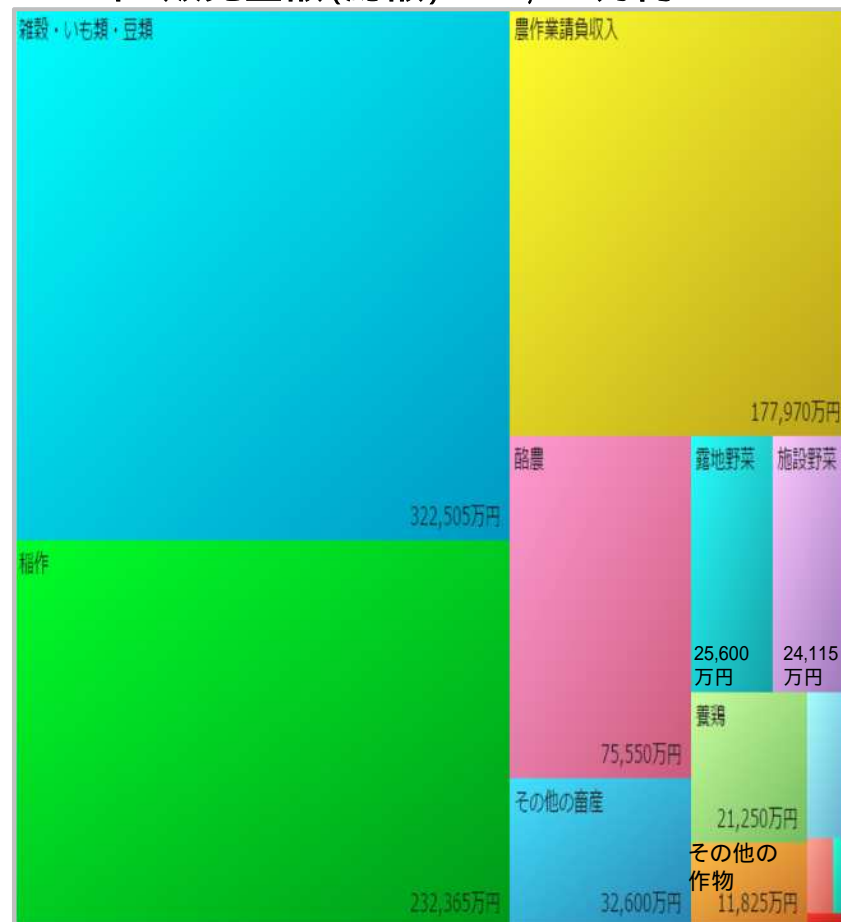
「雑穀・いも類・豆類」、「稲作」がニセコ観光圏の主要農産物として定着しています

### 農業部門別販売金額(総額)

2005年 販売金額(総額): 1,025,375万円



2010年 販売金額(総額): 943,525万円

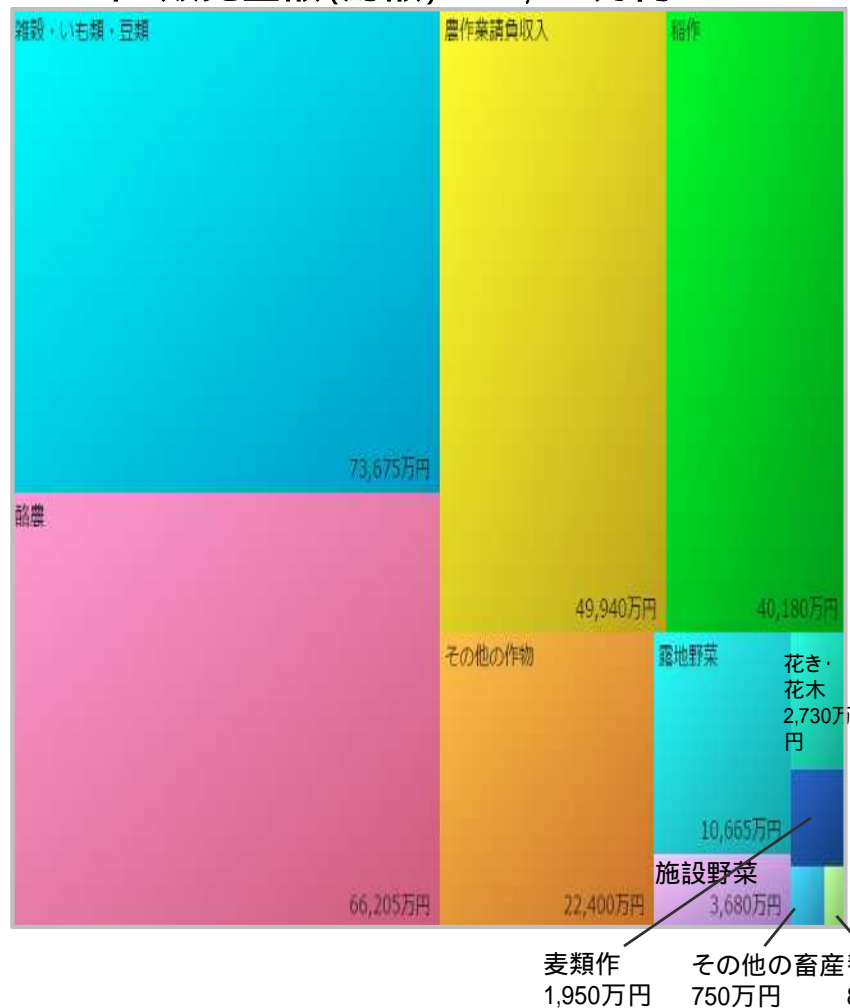


■ ニセコ観光圏でみると、「雑穀・いも類・豆類」、「稲作」、「酪農」が主な農業生産物となっています

2005年は「雑穀・いも類・豆類」の販売金額が最も大きかったですが、2010年は「農作業請負収入」の販売金額が増加し、最も大きくなっています

農業部門別販売金額\*(総額)

2005年 販売金額(総額):272,725万円



2010年 販売金額(総額):259,925万円



■ 販売金額が最も多いのは、2005年は「雑穀・いも類・豆類」、2010年は「農作業請負収入」となっています

■ 2005年から2010年にかけて、「酪農」が約3億円減少する一方、「その他の畜産」が約3億円増加しています

「農作業請負収入」とは、農家から委託を受けて農作業を行うことをさします ex) 田植えや収穫の代行  
 「その他の畜産」とは、馬、山羊、めん羊、蜜蜂等をさします  
 「その他の作物」とは、芝、種苗、牧草、栽培きのこ類等をさします

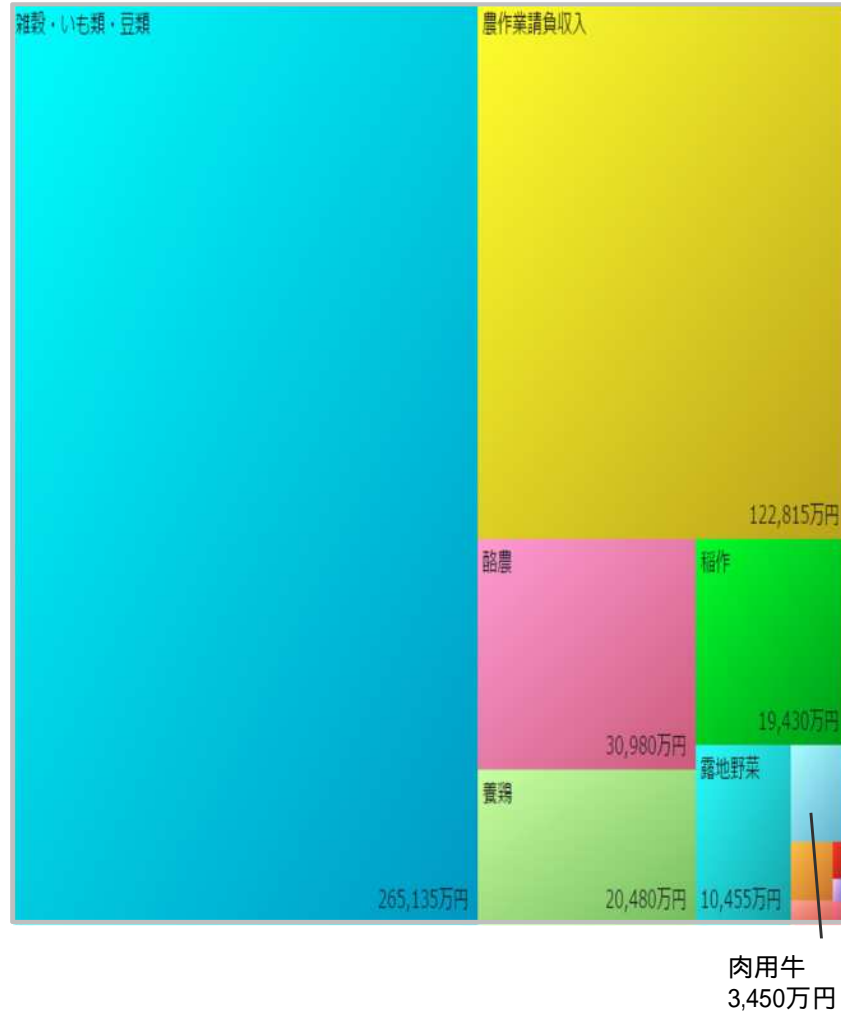
\*右式による推計値。販売金額 = Σ(各階層中位数 × 各階層経営体数) 但し、最上位層の中位数は10億円として推計  
 経営体: 販売のあった経営体 農業部門: 農林業センサスの部門分類に農作業請負収入を追加

# 倶知安町

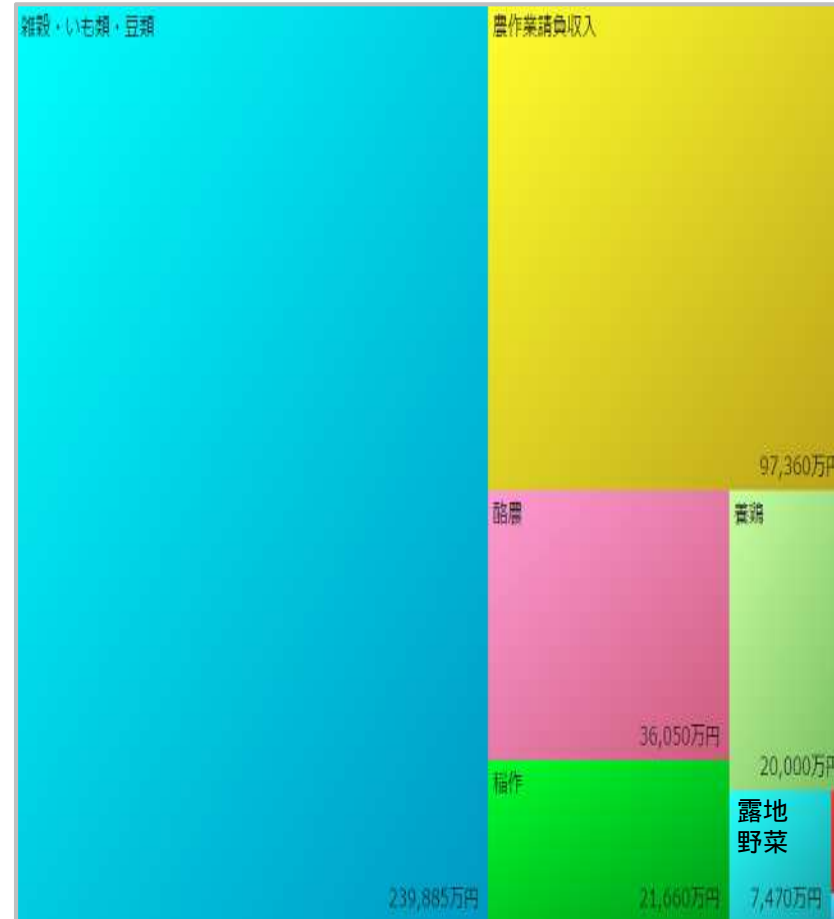
2005年から2010年にかけて販売金額構成に大きな変化はなく、「雑穀・いも類・豆類」が倶知安町の主要農産物として定着しています

## 農業部門別販売金額(総額)

2005年 販売金額(総額) : 479,125万円



2010年 販売金額(総額) : 425,750万円

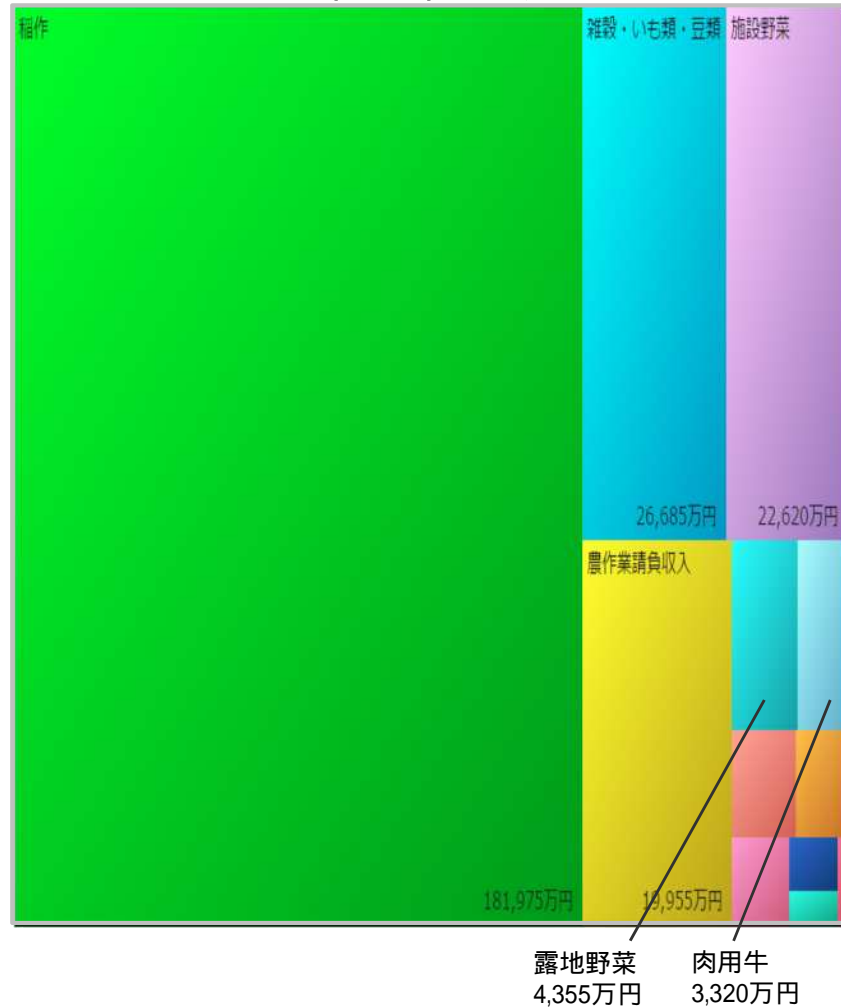


- 販売金額が最も多いのは、2005年・2010年ともに「雑穀・いも類・豆類」となっており、販売金額(総額)の半分以上を占めています
- 2005年と2010年で、販売金額の構成部門に特段大きな変化はありません

## 2005年から2010年にかけて販売金額構成に大きな変化はなく、「稲作」が蘭越町の主要農産物として定着しています

### 農業部門別販売金額(総額)

2005年 販売金額(総額) : 273,525万円



2010年 販売金額(総額) : 257,850万円

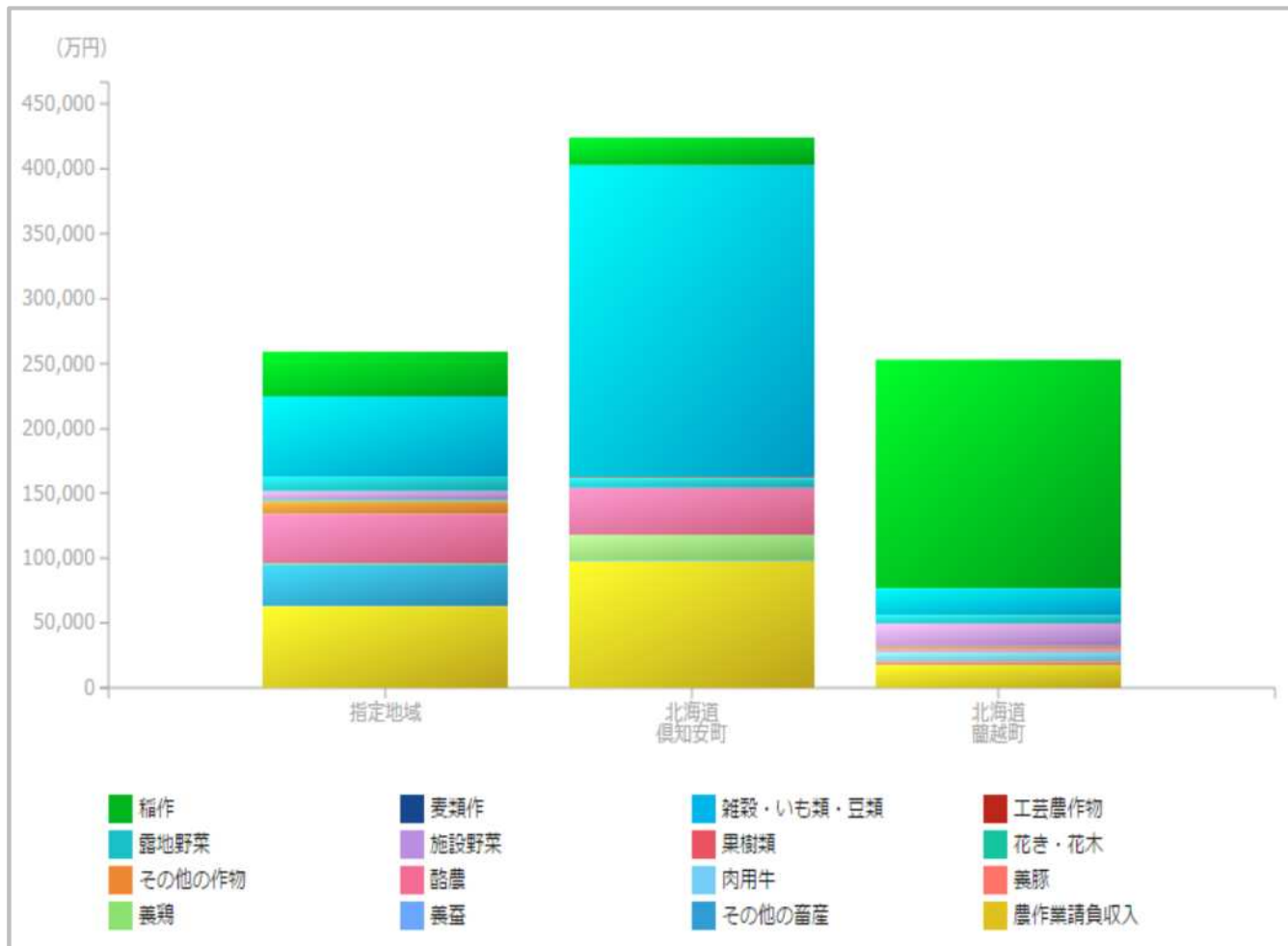


- 販売金額が最も多いのは、2005年・2010年ともに「稲作」となっており、販売金額(総額)の7割を近くを占めています
- 2005年と2010年で、販売金額の構成部門に特段大きな変化はありません

## 農業部門別販売金額(総額)構成の3町比較(2010年)

倶知安町が「雑穀・いも類・豆類」、蘭越町が「稲作」が主要生産物です  
一方でニセコ町は「多品種少量生産」が特徴となっています

### 農業部門別販売金額(総額)の構成比較



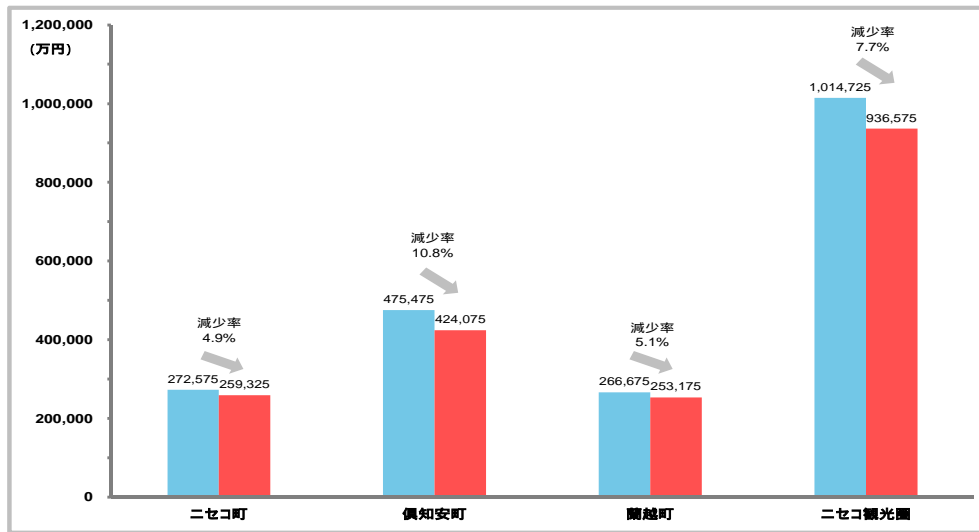
- 販売金額(総額)が最も大きいのは、倶知安町です
- 倶知安町は「雑穀・いも類・豆類」の販売金額が他町と比較して大きくなっていますが、「くっちゃんじゃが」のブランド化に起因するものと考えられます
- 蘭越町は、「稲作」の販売金額が他町と比較して大きくなっています
- ニセコ町は他町と比較して、際立って販売金額の大きい農業部門はありませんが、多部門にわたる農産物を生産していることが分かります



# 農業部門別販売金額(総額)、経営体数、経営体あたり農産物販売金額(総額)の推移比較

## ニセコ観光圏・3町それぞれともに販売金額(総額)は減少していますが、経営体数がそれ以上に減少しているため、経営体あたり販売金額(総額)は増加しています

農産物販売金額(総額)の推移比較 2005年 2010年 2015年

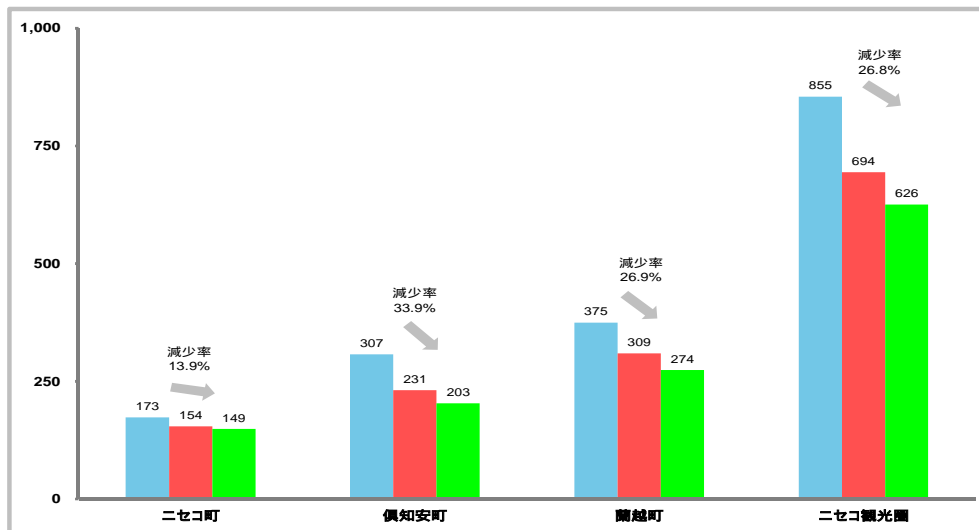


ニセコ観光圏、3町それぞれともに農業販売額(総額)は2005年から2010年にかけて減少しています。倶知安町と蘭越町の経営体数の減少率が農産物販売額(総額)の減少につながっています

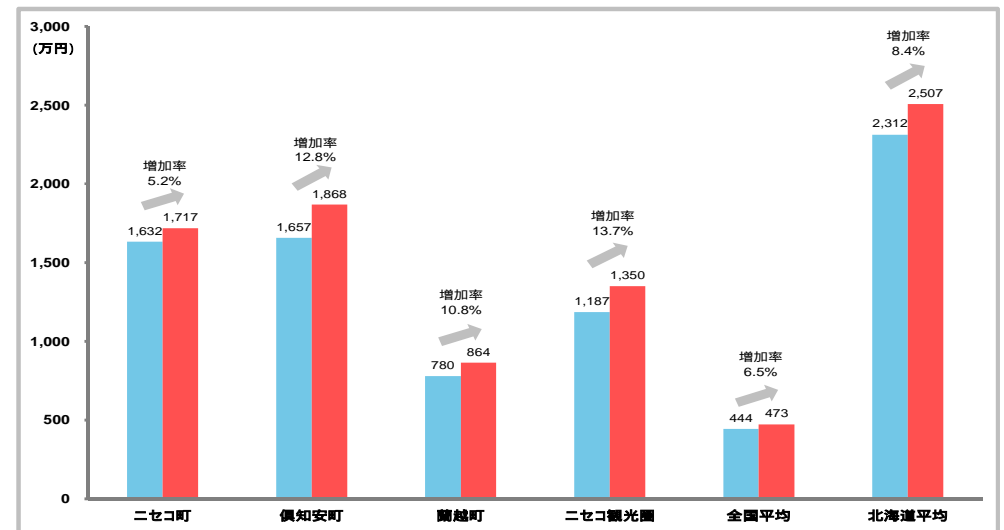
ニセコ観光圏、3町それぞれともに経営体数は2005年から2015年にかけて減少しています。ニセコ町は2005年から2015年にかけて、約14%減少していますが、倶知安町、蘭越町と比較すると減少率は低くなっています

ニセコ観光圏、3町それぞれともに経営体あたり農業販売額(総額)は2005年から2010年にかけて増加しています。経営体数が減少している(上記の通り)ことが影響していると考えられます

経営体数の推移比較



経営体あたり農産物販売金額(総額)の推移比較

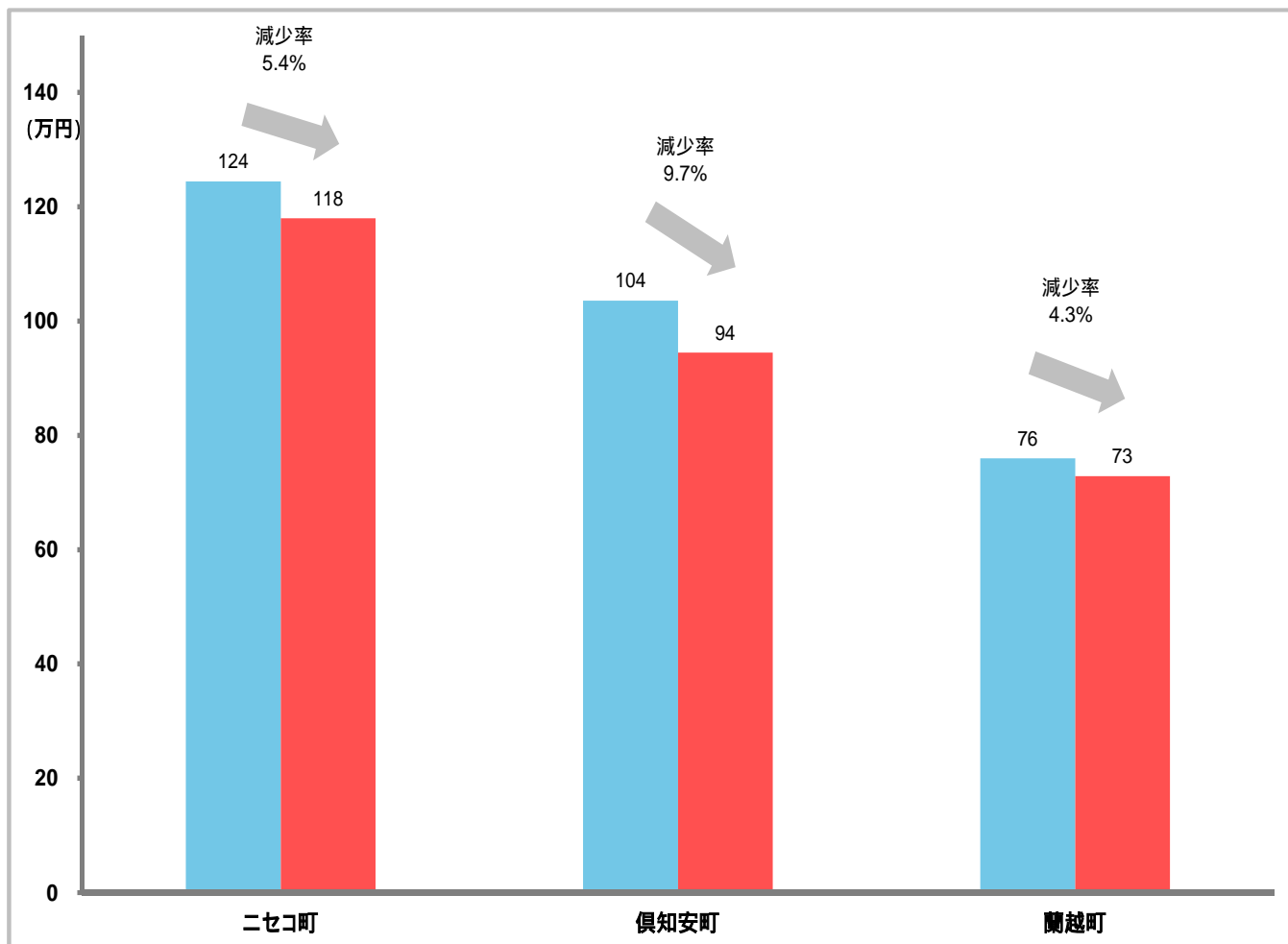


## 経営耕地面積あたり農産物販売金額

# 経営耕地1haあたりの農産物販売金額は3町ともに2005年から2010年にかけて減少傾向にあります

経営耕地1ha当たり農産物販売金額\*

■ 2005年 ■ 2010年



- ニセコ町・倶知安町・蘭越町いずれも、経営耕地1haあたりの農産物販売金額は2005年から2010年にかけて減少しています
- 3町の中では、ニセコ町が最も高くなっています

\*1haあたり農産物販売金額 = 農産物販売金額(万円) ÷ 経営耕地(ha)

## 農産物の販売金額帯別経営体数の割合

3町とも販売金額が「1,000万円以上5,000万円未満」の経営体割合が増加している。  
一方蘭越町は「100万以上1,000万円未満」の経営体が最も多くなっています

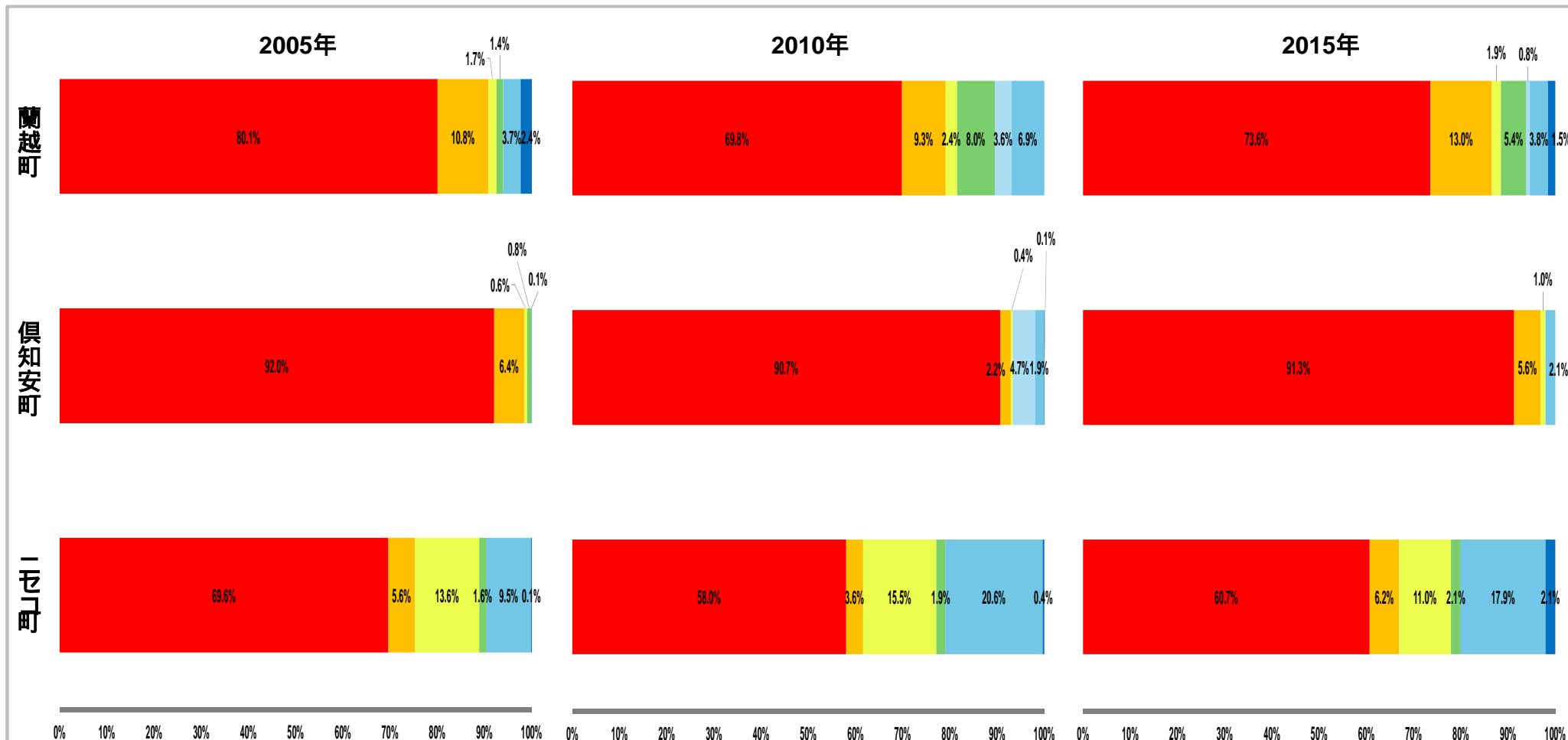
### 農産物販売金額帯別の経営体の割合推移比較



## 農産物の出荷先別経営体数の割合

出荷先を比較すると、ニセコ町は「卸売市場」「消費者に直接販売」、倶知安町は「農協」、蘭越町は「小売業者」への出荷割合が高くなっています

### 農産物の出荷先別\*販売金額の割合推移比較



■ 農協      ■ 卸売市場      ■ 食品製造業・外食産業  
■ 農協以外の集出荷団体      ■ 小売業者      ■ 消費者に直接販売      ■ その他

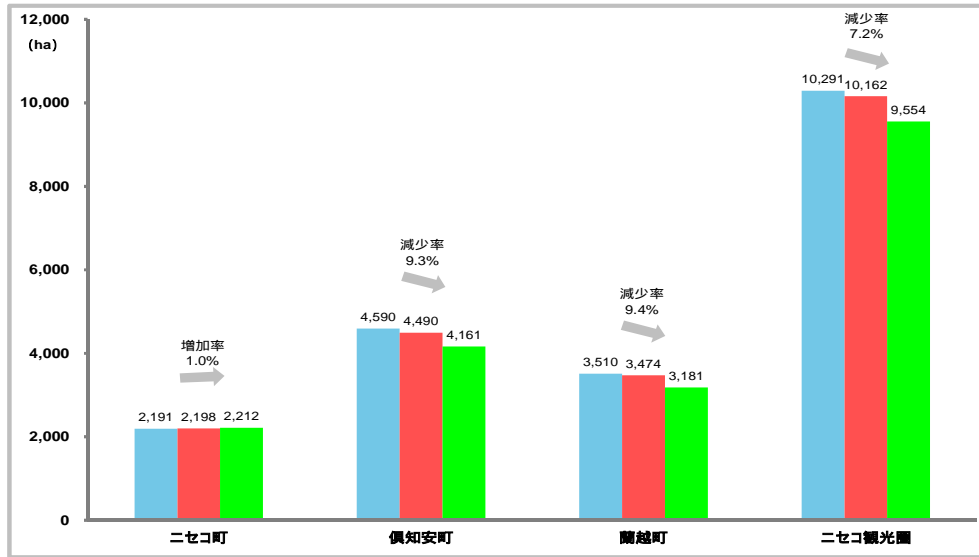
\*出荷先は、各経営体において最も出荷している先をカウント

## (2) 農地分析

## 経営耕地面積\*

経営耕地面積は、ニセコ町は微増傾向、倶知安町・蘭越町が減少傾向にあり、ニセコ観光圏では減少傾向にあります

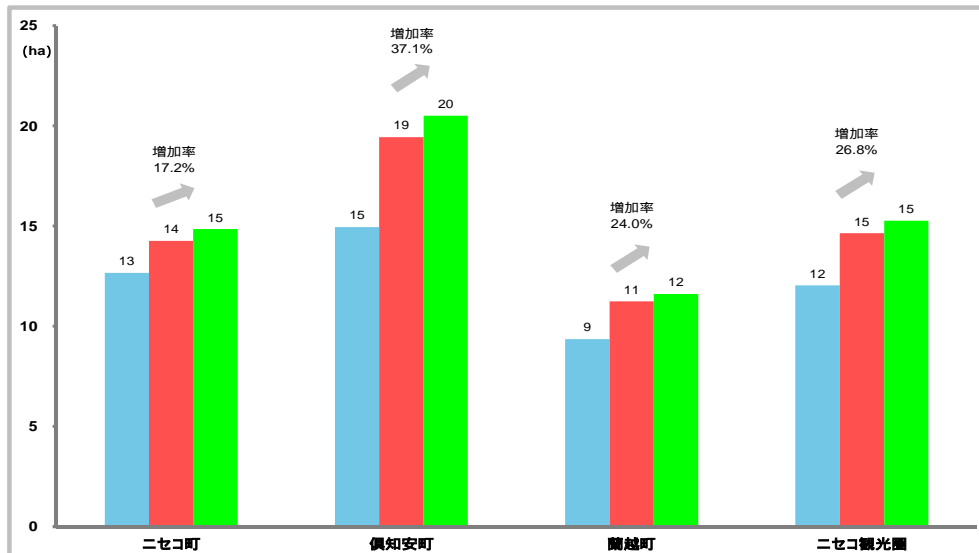
経営耕地面積(総面積)の推移比較 2005年 2010年 2015年



- ・ニセコ町の経営耕地面積は2015年で約2,200haであり、2005年と比較して微増傾向にあります
- ・倶知安町の経営耕地面積は2015年で約4,200haであり、2005年と比較して減少傾向にあります
- ・蘭越町の経営耕地面積は2015年で約3,200haであり、2005年と比較して減少傾向にあります
- ・ニセコ観光圏の経営耕地面積は2015年で約9,500haであり、2005年と比較して減少傾向にあります

3町それぞれ及びニセコ観光圏全体ともに経営体あたりの経営耕地面積は、2005年から2015年にかけて増加しています(同時期に3町それぞれ及びニセコ観光圏で経営体数が減少しているため)

経営体あたり経営耕地面積の推移比較



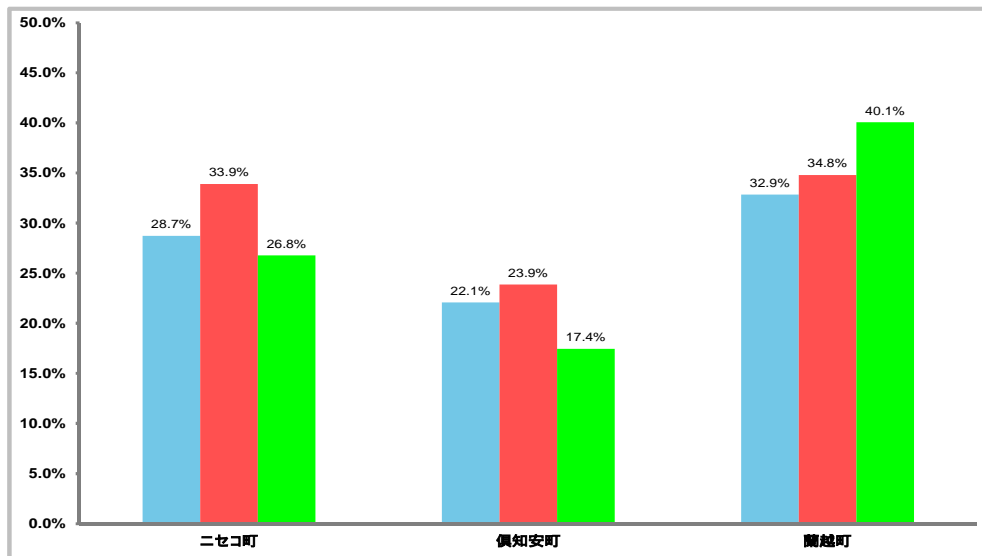
\*経営耕地面積: 農家が耕作して農作物を作る土地、田畑として利用している土地。

## 農地流動化率\*、耕作放棄地率\*の比較

蘭越町では、農地の流動化がニセコ町・倶知安町に比べて進んでいます  
2010年から2015年にかけて、ニセコ町で耕作放棄地率が大幅に低下しています

### 農地流動化率

2005年 2010年 2015年



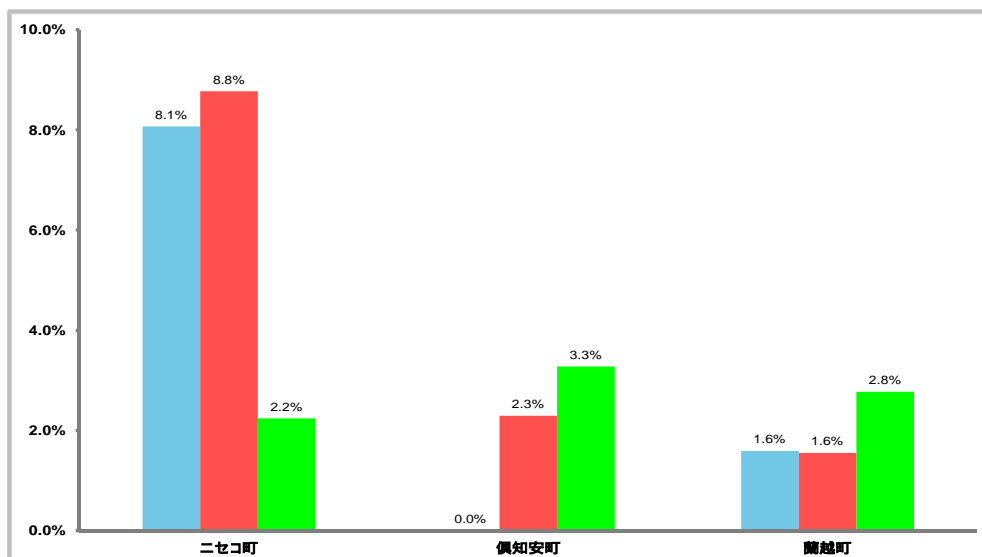
- ・ニセコ町の農地流動化率は2005年から2015年にかけて、約2%減少しています
- ・倶知安町の農地流動化率は2005年から2015年にかけて、約5%減少しています
- ・蘭越町の農地流動化率は2005年から2015年にかけて、約7%上昇し、40%を超えています

蘭越町では、ニセコ町・倶知安町と比較して農地の流動化が進んでいます

- ・ニセコ町の耕作放棄地率は2005年から2010年にかけて上昇していましたが、2010年から2015年にかけて約7%減少しています
- ・倶知安町では2005年に0%であった耕作放棄地率が、2015年に3.3%まで上昇しています
- ・蘭越町では2010年から2015年にかけて、耕作放棄地率が約1%上昇しています

ニセコ町では2010年から2015年に耕作放棄地率が大幅に減少した一方で、倶知安町・蘭越町では上昇しています

### 耕作放棄地率



\*農地流動化率=借入耕地面積÷経営耕地面積

\*耕作放棄地率

= (総農家の耕作放棄地面積 + 土地持ち非農家の耕作放棄地面積)  
÷ (総農家の経営耕地面積 + 総農家の耕作放棄地面積 + 土地持ち非農家の耕作放棄地面積)

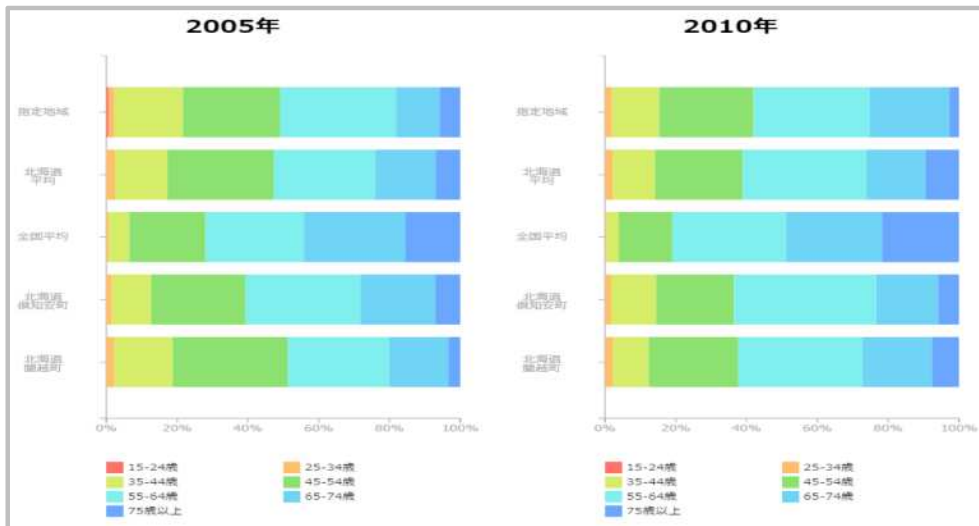
## (3) 農業者分析



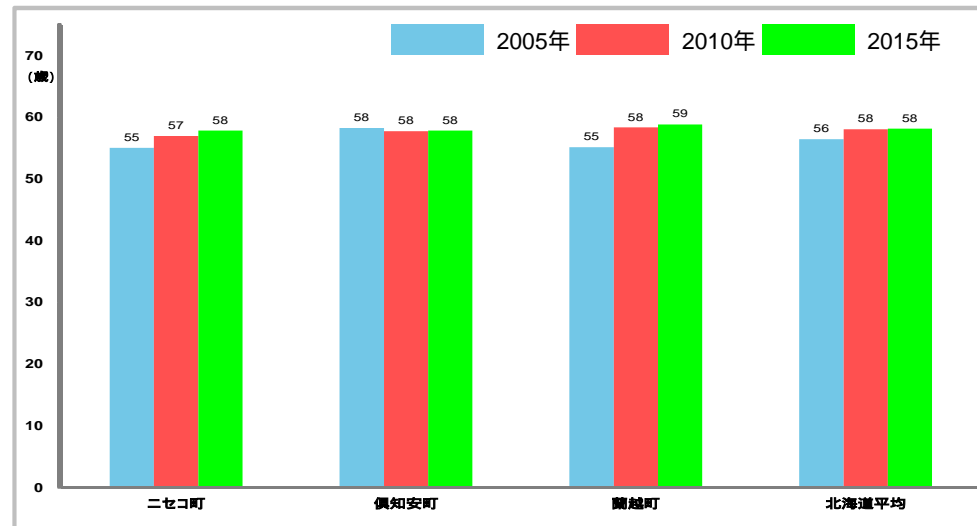
# 農業経営者及び農業就業人口の年齢構成

3町とも農業経営者の20%以上、農業就業者の30%以上が65歳以上となっています  
 3町とも農業経営者・農業就業者いずれも、平均年齢は60歳近くなっています

年齢構成割合比較



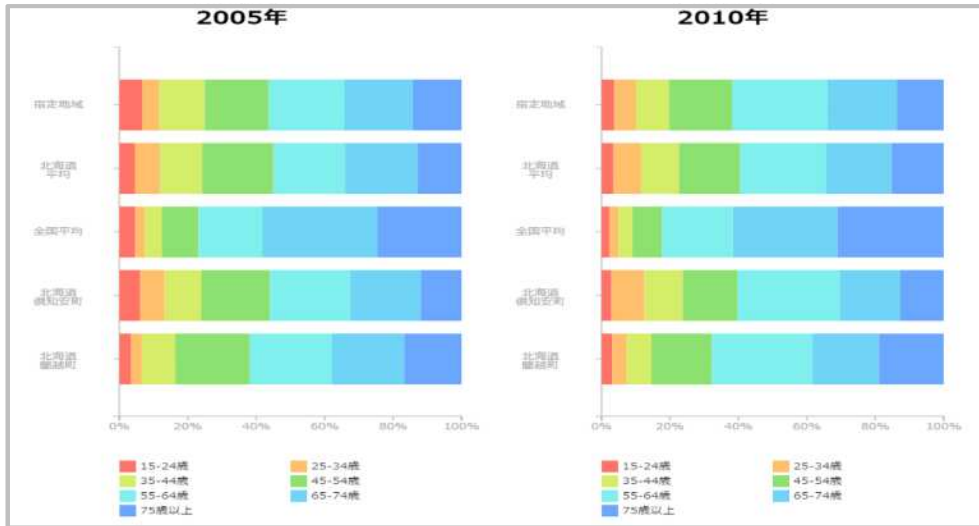
平均年齢



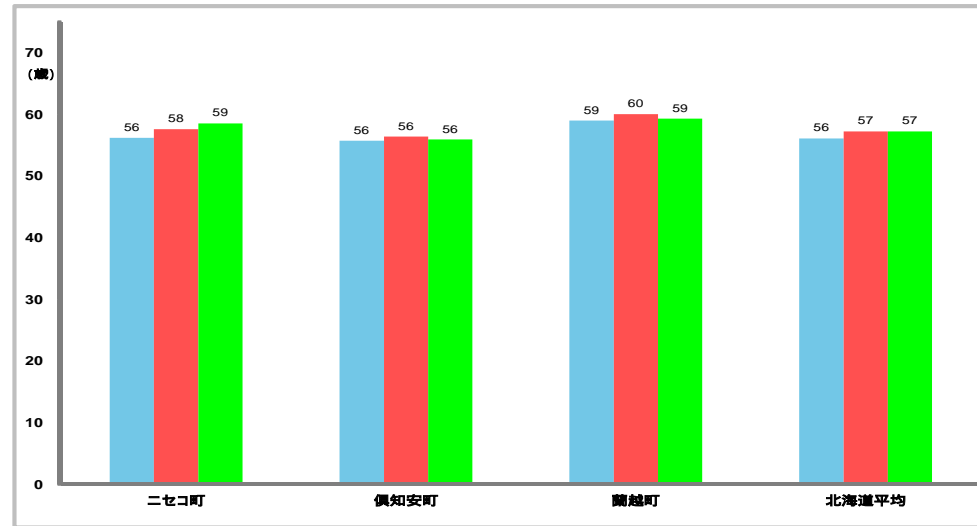
\* 農業経営者

2005年

2010年



\*\* 農業就業人口



\* 農業経営者：当該農家の農業経営に責任を持つ者をいい、農作業に従事せず作業等の指示を行うだけの者も含める

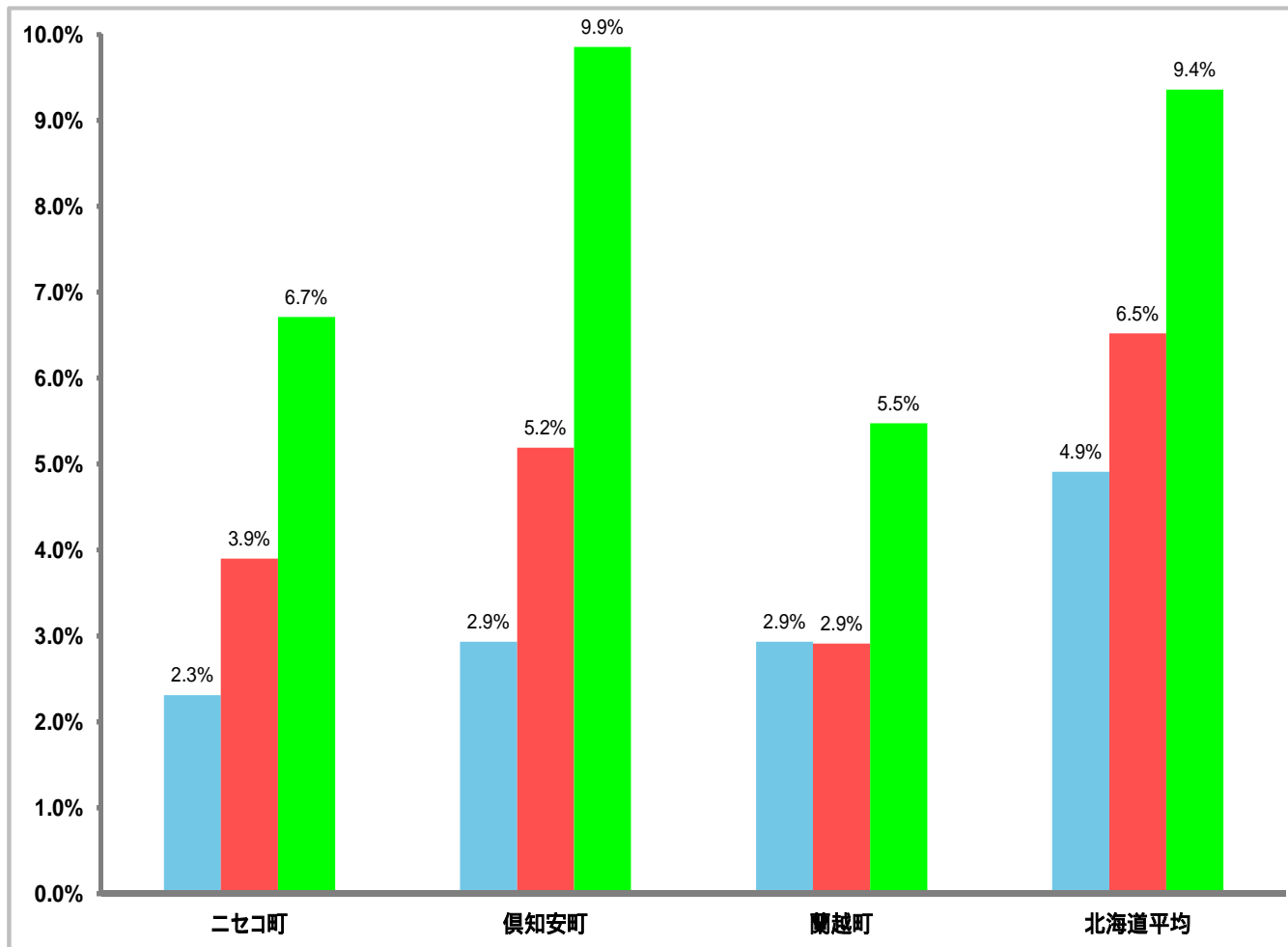
\*\* 農業就業人口：農業従事者のうち、農業に主として従事した世帯員

## 法人化率\*

# ニセコ町・倶知安町・蘭越町いずれも農業経営体の法人化率が、2005年から2015年にかけて上昇しています

### 農業経営体の法人化率

■ 2005年 ■ 2010年 ■ 2015年



■ ニセコ町・倶知安町・蘭越町いずれも、法人化率が2005年から2015年にかけて上昇しています  
(経営体数減少の影響あり)

■ 北海道平均でも、法人化率は2005年から2015年にかけて上昇しています

\*法人化率 = 法人経営体数 ÷ 経営体数

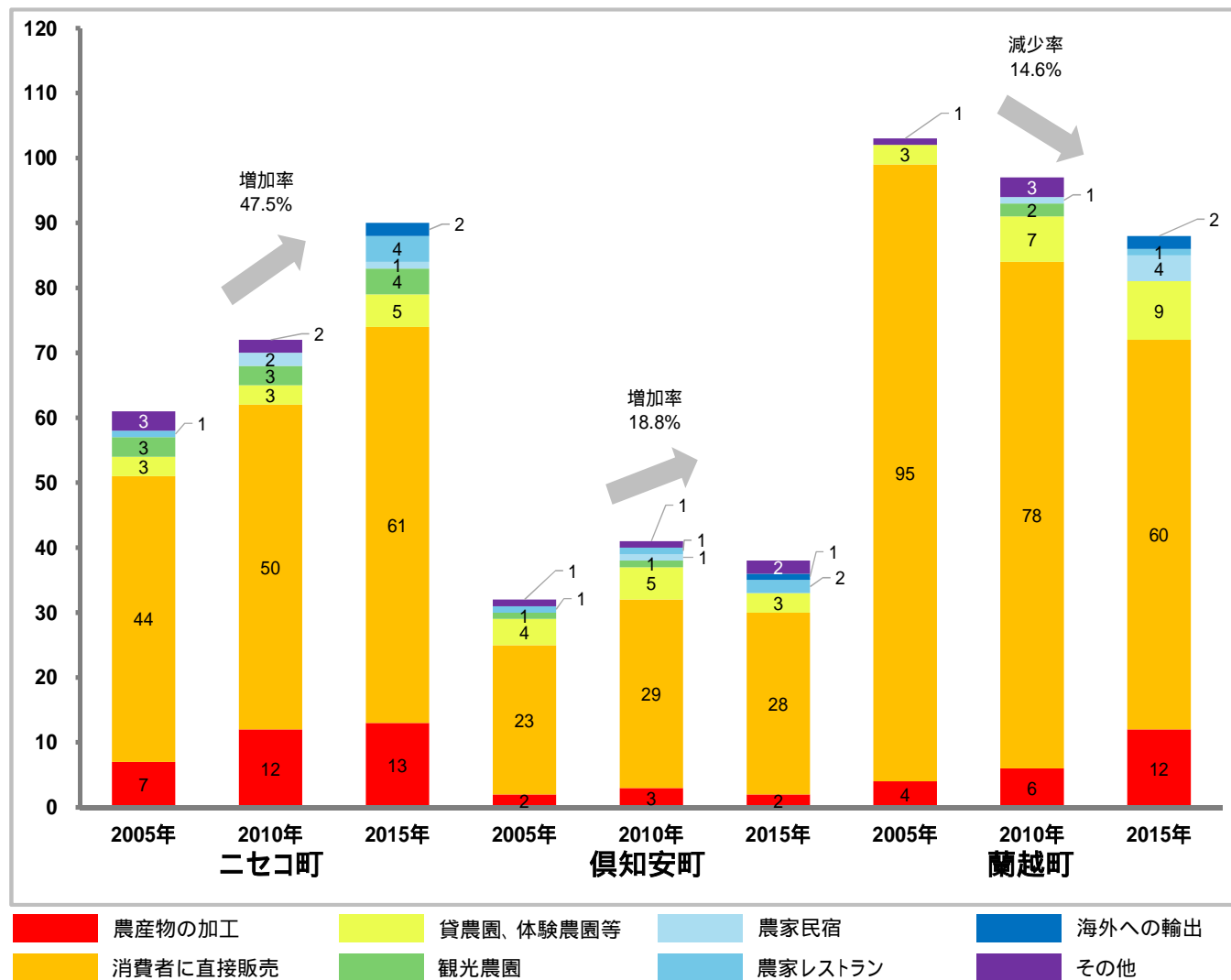
法人とは、農事組合法人、会社、農協、森林組合等

\*\*集落営農・複数個別経営の法人化金銭的支援(定額40万円)、法人経営に必要な労務・財務管理の研修等の実施

## 農業生産関連事業の実施状況(経営体数)

2005年から2015年にかけて、ニセコ町・倶知安町では農業生産関連事業を実施する経営体が増加する一方、蘭越町では減少しています

### 農業生産関連事業の実施状況



(ニセコ町)

・農業生産関連事業を実施している経営体数が、2005年から2015年にかけて約48%増加しています  
 ・内訳をみると、「農産物の加工」、「消費者に直接販売」を実施する経営体が増加しています

(倶知安町)

・農業生産関連事業を実施している経営体数が、2005年から2015年にかけて約19%増加しています  
 (直近2010年から2015年にかけては減少)  
 ・内訳をみると、「消費者に直接販売」を実施する経営体が多くなっています

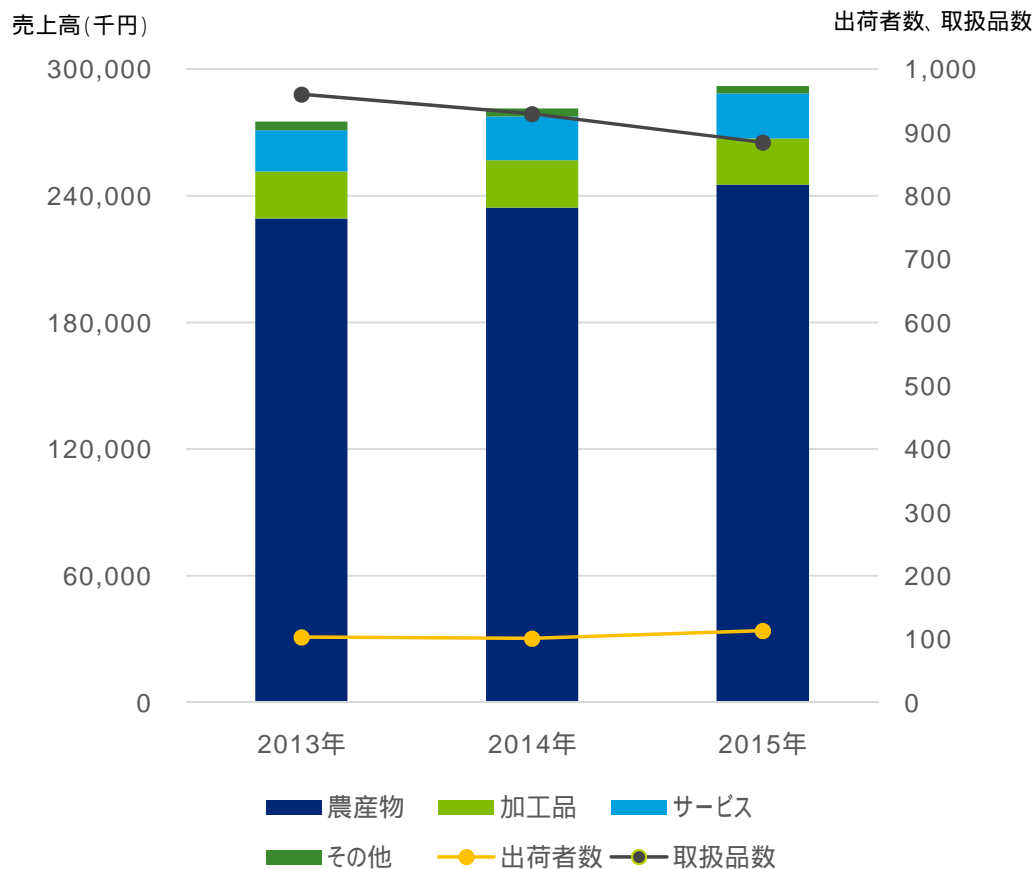
(蘭越町)

・農業生産関連事業を実施している経営体数が、2005年から2015年にかけて約15%減少しています  
 ・内訳をみると、「消費者に直接販売」を実施する経営体が増加している一方で、「農産物の加工」を実施する経営体が増加しています

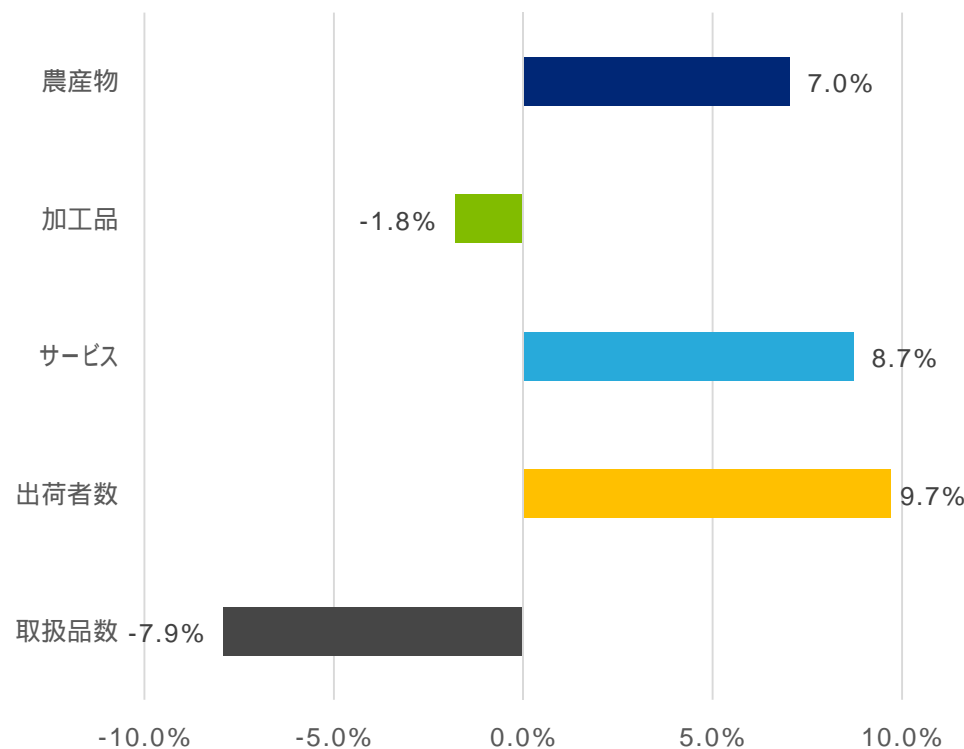
## 4 . ニセコビュープラザ売上データ整理

## 直売所の売上・出荷者数は毎年増えていますが、取扱品数は低下傾向にあります

### 直売店の売上高・出荷者数・取扱品数の推移



### 取扱品数別の成長率 (2013年vs 2015年)



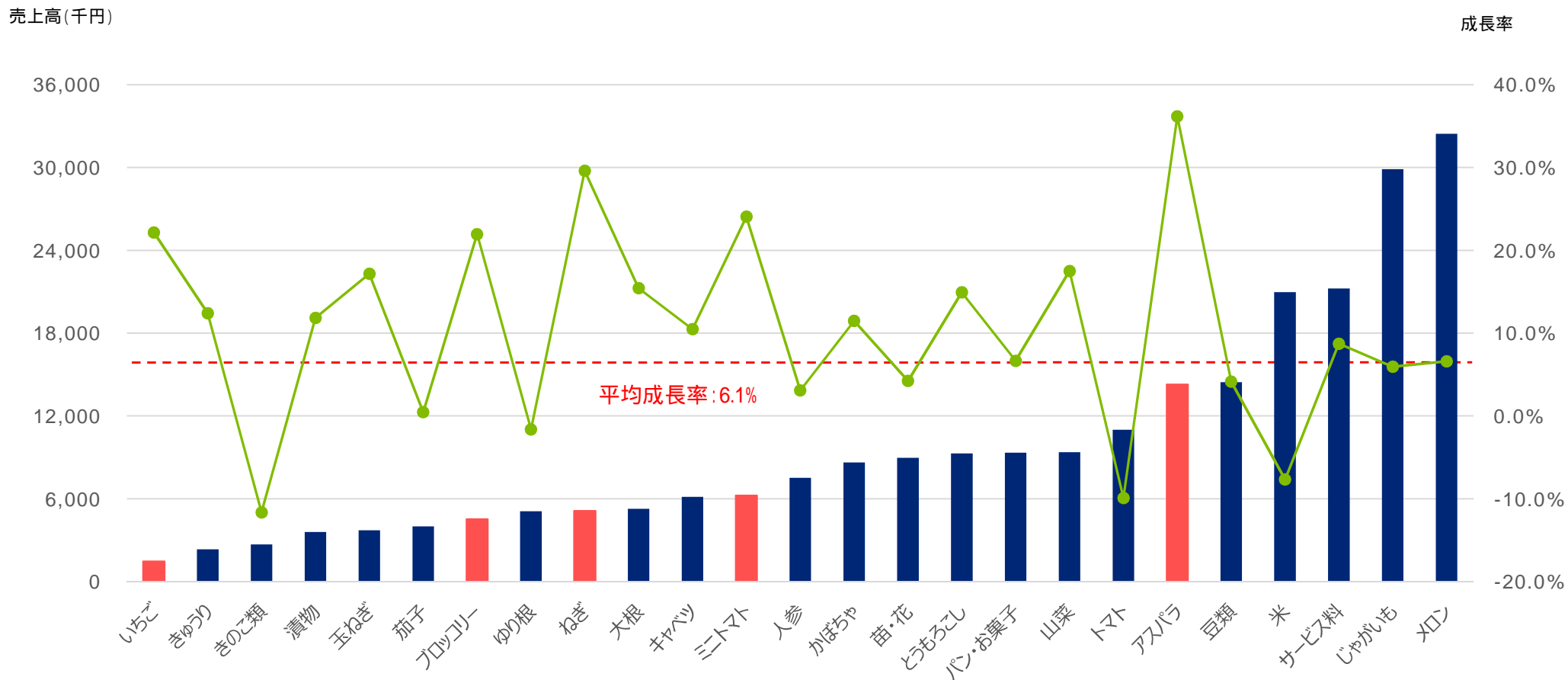
- 直売所の売上は、毎年10%程度の増収となっており、売上高の約80%は農産物です
- サービスは郵パックが大半を占めており、ニセコ農産物が町外輸出が増えています。
- 出荷者数は100を超えており、ニセコ町内の7割近い農家が消費者への直売を行っています。

- 取扱品数は年々減っています。

## ファクト抽出:何が売れているのか

# 売上高の変動はありませんが、一部の農産物の売上伸び率が高くなっています

### 取扱品別売上高・成長率

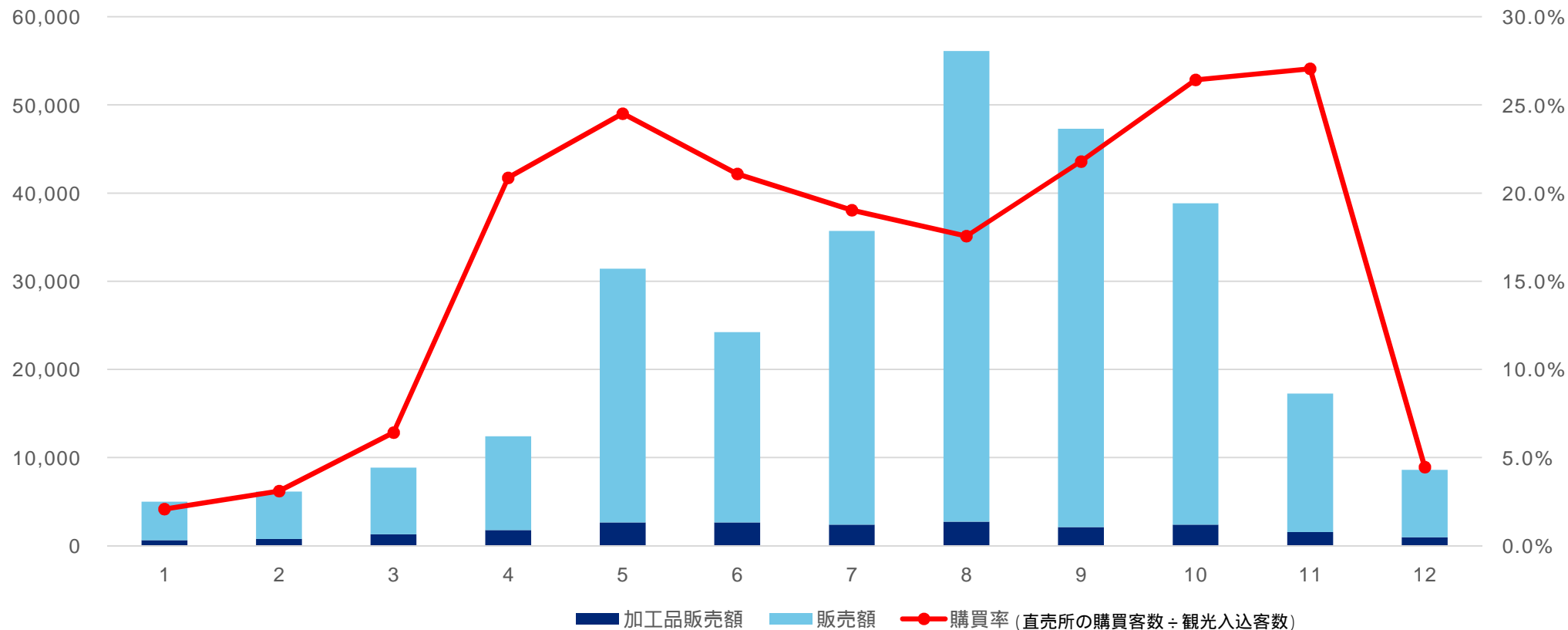


- 全体の平均成長率が約6%である中、アスパラやミニトマト、ねぎ、ブロッコリー、いちごは、18%を超えています

## 月別売上高

# 冬期間にニセコ町内に集客した観光客を購買に繋がられていない

月別売上高販売額(千円) × 購買率



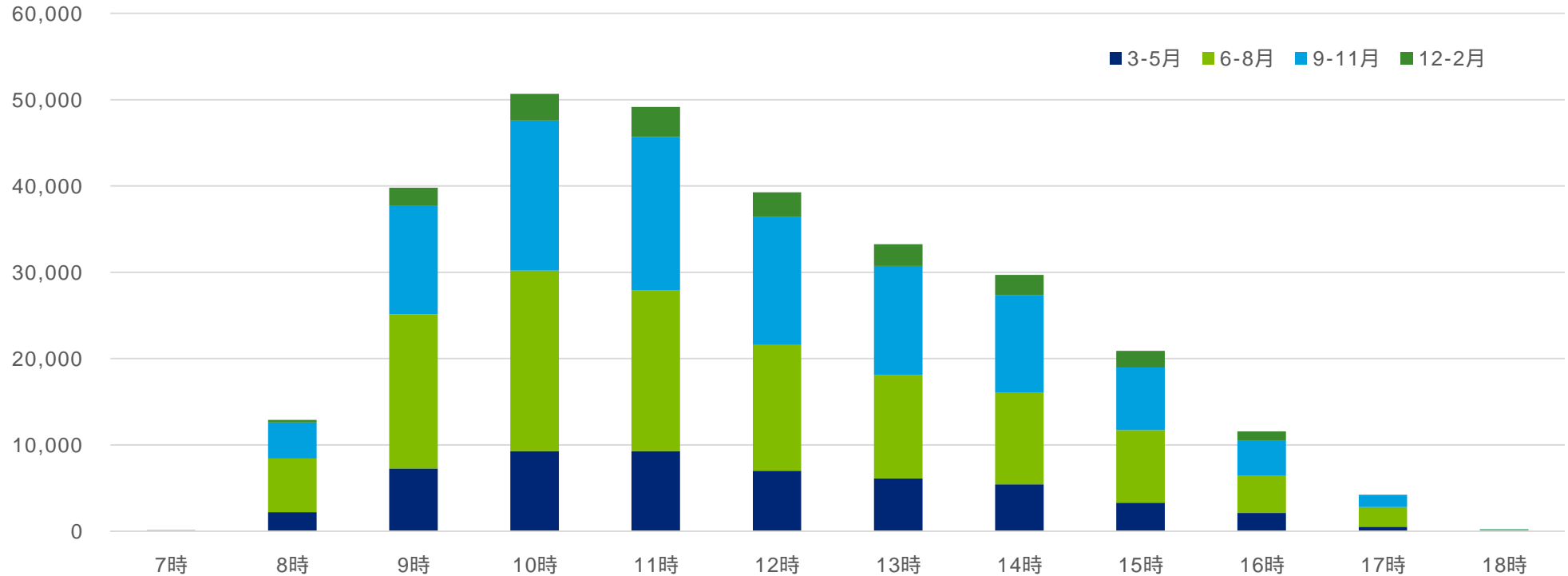
- ・ ニセコ町は、冬期間の観光客数が多いにも関わらず、直売所の売上高が少なくなっています。
- ・ 農産物の収穫時期が過ぎていることも要因ではあると思いますが、加工品は冬季でも販売可能であり、うまく直売所に観光客を呼び込めていない、かつ、加工品を訴求できていない可能性があります。

## 時間帯別売上高

購買時間帯は午前10時がピークであり、その傾向は同年同様となります

### 季節別×時間帯別売上高

売上高(千円)



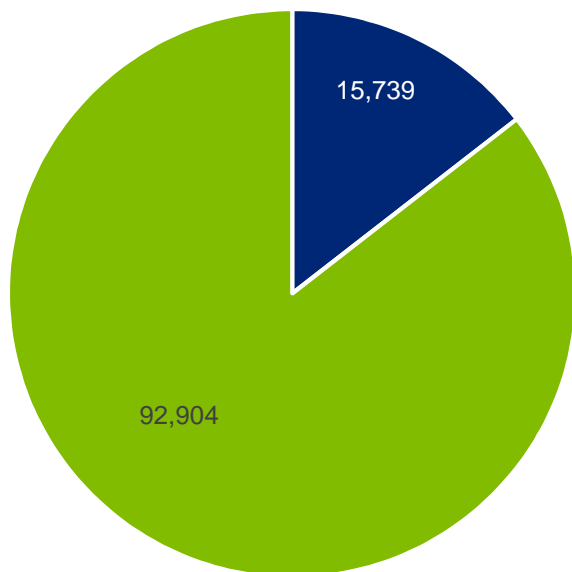
- 時間がたつにつれ売上高が減少しているのは、午前中に陳列された農産物が販売後に補充されていないためと考えられます。



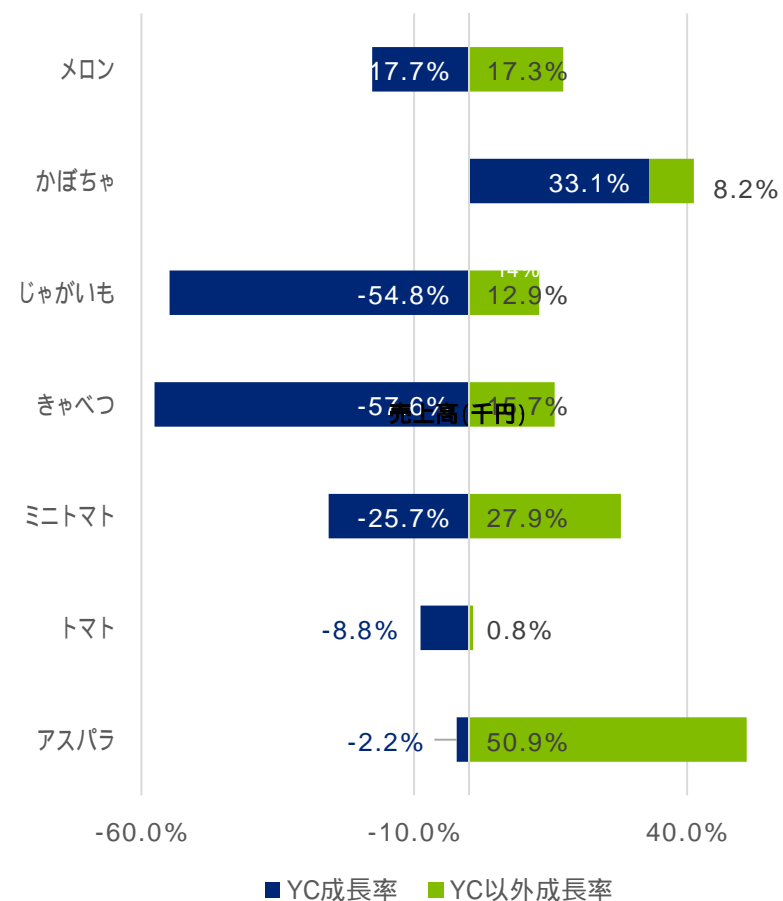
## ファクト抽出：農産物に対する安心安全ニーズは高まっているか

同一農産物の売上高のうち約15%を占めていますが、かぼちゃを除くYesクリーン農産物の売上成長率が年々低下しています

Yesクリーン農産物の売上高・割合(平成27年)



Yesクリーン農産物と一般農産物の成長率



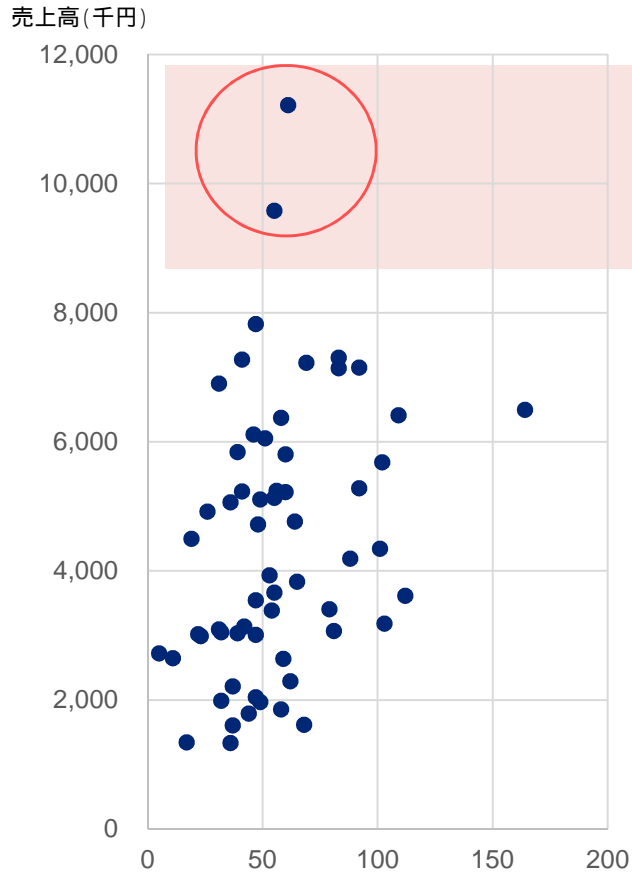
• Yesクリーン農産物の売上割合は年々低下しています

• かぼちゃ以外は、Yesクリーン認定を受けた農産物より、認定を受けていない一般農産物の方が売れています

# ファクト抽出:生産者の特徴で売上に差がでているか

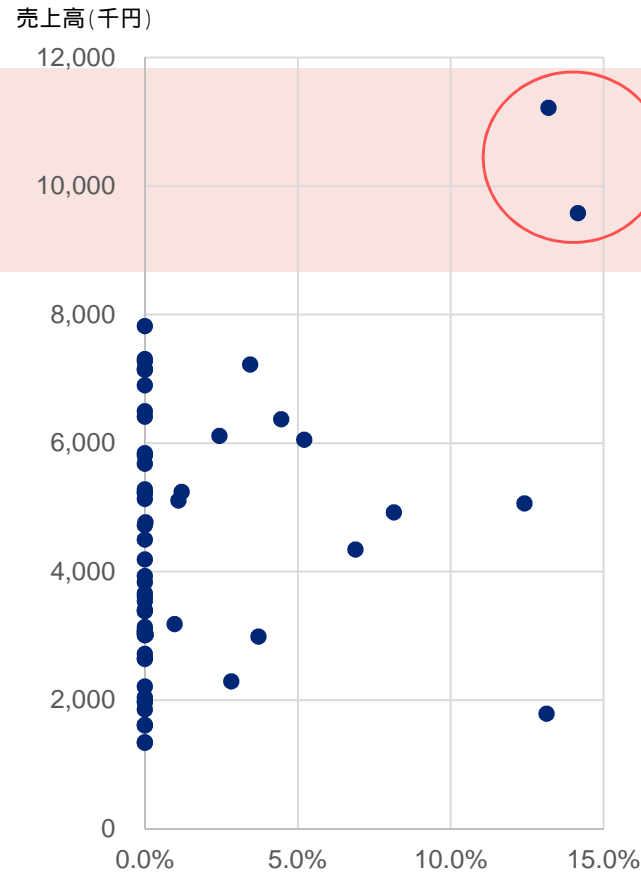
## 取扱品数・Yesクリーン農産物取込割合、トレンド農産物取込割合と売上高の関係はみられない

### 売上高 × 取扱品数



### 売上高 × Yesクリーン農産物取込割合

Yesクリーン農産物が総売上高に占める割合



### 売上高 ×トレンド農産物取込割合

売上高の成長率が平均より高い農産物が総売上高に占める割合

